

クロンヤン Tumbol Klonyang(クラビ県ランタ郡)

クラビ県ランタ郡に位置しているランタ島は、年間26万人ほどの観光客が訪れるため、ごみの増加と処理場からの排水問題が深刻化しており、ごみ対策が急務となっている。将来は有機農業のモデル地域化を目指しており、観光地としてもOrganic Resortを目指す明確な意向を持っている。クロンヤン小学校では、果物の皮や残飯による液肥作り、牛糞堆肥作り、ランタ米(赤米)の栽培、野菜類の栽培、養鶏、魚の養殖、マングローブの植林および保全、紙やパッケージを利用した飾り作りなど多様な活動が活発に行われている。これらの取り組みは、保護者らが中心となって組織している農業後援会と連携しながらの極めて貴重なモデルケースである。この地域では油ヤシの栽培が盛んであり、搾油所では大量の残差が排出されている。油ヤシ堆肥の生産が軌道に乗れば、堆肥の生産量も飛躍的に増加する可能性がある。



キックオフミーティング



ランタ米の籾殻と米ぬか



生ごみ堆肥の仕込み



生徒からのプレゼント



生徒も研修



生徒が熱心に記録



アブラヤシプランテーション



小学校の堆肥製造所



ランタ島の最終処分場



アブラヤシ搾油工場のヤシ殻



自治体職員が材料を搬入



ヤシ殻堆肥の仕込み



試験区の前で記念写真



アブラヤシの実

2006年1月現在、クロンヤン小学校にて分別回収の成果により、これまでの2倍(1週間で約100kg)の生ごみ堆肥が生産できるようになった。生ごみ回収量は今後も増加し、クロンヤン地区自治体における生ごみの発生量は一日あたり500kg程度と推測され、一日200kg、年間7トン程度の生ごみ堆肥生産量が見込まれる。また、クロンヤン地区自治体においては、アブラヤシ残渣の堆肥化を提案し、ベンチスケール及びパイロットスケールの堆肥化試験を実施している。クラビ県が、全県をあげてアブラヤシ堆肥化に取り組みたいとの意向があり、クロンヤン小学校が中心となってクラビ県内各地においてアブラヤシ堆肥及び生ごみ堆肥の技術指導や製造技術のデモンストレーションを実施する方向で調整が始まった。